

看護師のための認知症ケア講座 開催のご案内

《認知症ケア加算2該当研修》

2025年には、認知症高齢者は約700万人に上ると言われ、実に65歳以上の5人に1人が認知症を持つと言われていています。認知症は誰もが身近な病気であり、超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護の従事者は全員、認知症ケアのプロであることが求められるようになるでしょう。このような背景から、平成28年診療報酬改定では認知症ケア加算が新設され、医療保険でも身体拘束廃止に向けての取り組みがようやく本格的に進められることとなりました。認知症は、医療関係者のみでなく地域としても対応しなければならないものですが、その要となるのは看護師の皆様です。本講座では、認知症を知り、認知症をもつ人と向き合い、多職種チームでよりよいケアを提供できるよう、看護師の皆様に焦点を絞った研修を行います。

福岡県内の施設間において県民へ質の高い医療・看護・介護を厚く提供するという当協会の主旨に沿い、認知症に向き合うプロを目指す皆様のご参加をお願い致します。

◆ 開催概要

- (1) 日程 平成30年7月28日(土)・29日(日)
- (2) 会場 博多市民センター
福岡市博多区山王1-13-10
Tel 092-472-5991 (福岡市地下鉄「東比恵駅」下車 徒歩 15分)
(西鉄バス 「山王公園前」下車 徒歩 3分)
- (3) 定員 看護師200名
- (4) 参加費 会員8,000円、非会員20,000円
※福岡県慢性期医療協会、日本慢性期医療協会いずれかに所属する医療機関の職員は会員価格で受講可能です。
- (5) 申込方法 別紙申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申込みください。追って連絡担当者様宛に参加案内・参加費請求書などをお送りいたします。
- (6) 締切日 平成30年7月14日(土)(定員に達し次第締め切りとさせていただきます)
- (7) 連絡先 〒813-8588 福岡県福岡市東区青葉6-40-8 原土井病院地域連携室内
一般社団法人福岡県慢性期医療協会 Tel092-691-3886 Fax092-691-3961
- (8) 申込 <http://www.famcf.jp/> ホームページより書式をダウンロードし
FAXをお願いします (FAX092-691-3961)

※本研修は診療報酬上の「認知症ケア加算2」の加算要件に該当します。

※本研修を2日間通して参加された方は、当協会より修了証を発行いたします。

(遅刻・早退・中抜けなどがある場合は修了証を発行いたしかねます。)

※2日目の昼食は弁当を用意しておりますが、アレルギー等のある方は各自準備をお願いいたします。(昼食時の外出は原則禁止致します。)

◆ プログラム

《1日目》 7月28日（土）

13：55～14：00	開講挨拶 福岡県慢性期医療協会 会長 原寛
14：00～15：30	認知症の原因疾患と病態・治療 *講師：佐々木健介（御所ヶ谷ホームクリニック 医師） 看護師も医師とともに、認知症の症状を引き起こす原因疾患に向き合うことが認知症ケアの基本となる。認知症の予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症疾患そのものを知ろう。
15：30～15：50	休憩
15：50～18：10 うち講義 60分 演習 70分 休憩 10分	行動・心理症状（BPSD）、せん妄の予防と対応法 *講師：柳田諭（社会医療法人 原土井病院 精神科医師） 認知症の人をケアする上で一番の問題とも言えるのは、BPSD、せん妄等であろう。しかし、それは認知症の人にとっての問題ではなく、周囲にとって大きな問題であるのかもしれない。ケアのレベルアップによって、これらの問題はどうか変わっていくのかを考えよう。 （演習）参加者各自がBPSD、せん妄の対応の困難事例についてディスカッションをとおして考える。

《2日目》 7月29日（日）

9：15～9：20	ご挨拶 福岡県慢性期医療協会 理事 田中 圭一
9：20～11：50 うち講義 60分 演習 80分 休憩 10分	入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術 *講師：福嶺初美（医療法人聖峰会 田主丸中央病院 老人看護専門看護師） 認知症患者に対しては、看護師の思い込みや誤解の可能性を踏まえ、言動や現象の意味を、多様な側面から検討する事が重要です。日常のケアの困り事の視点が認知症患者の困り事と繋がるような、援助技術を考えましょう。 （演習）事例を提示し、適切なアセスメントやどのような援助が求められるのかを考える。
11：50～12：50	昼食
12：50～15：20 うち講義 30分 演習 80分 休憩 10分 まとめ 30分	コミュニケーション方法及び療養環境の調整方法 *講師：飯山 有紀（熊本保健科学大学 講師 老人看護専門看護師） 認知症患者は、物理的環境の影響を受けやすい。看護師も物理的環境の一部に入ります。その方が過ごしてきた生活環境を大切に、療養環境がどのように影響しているのかを考え、改善できる要素を探していきましょう。 （演習）事例を提示し、コミュニケーションの取り方、医療チームでの対応、環境の調整方法を考える。
15：20～15：40	休憩
15：40～17：10	認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援 *講師：長尾哲彦（特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院 院長） 認知症患者や家族に対する病名告知や病状説明には、他の疾患とは異なる特別な配慮が必要です。時には相反する患者と家族双方の権利・尊厳を認めつつ、両者の良好な関係を保つための支援も認知症診療に関わる医療者の重要な仕事です。心安らかに認知症と共存し、終末期を迎えていただくために、我々はどうあるべきか、一緒に考えてみましょう。
17：10	閉講